

『上牧・鵜殿ヨシ原に 新たな危機』

特別管理産業廃棄物の焼却炉の建設

最良の筆葉用のヨシの生育地である上牧・鵜殿ヨシ原に、また新たな問題が降りかかって来た。ヨシ原から約800mの地に有害物質の飛散の恐れのある産業廃棄物の建設が都市クリエイト(株)により計画されている。この焼却炉は一般ごみや普通の産業廃棄物焼却炉では焼却できない「健康や環境に被害を及ぼすおそれのある廃棄物」も含む「特別管理産業廃棄物」(※1)の焼却も行うというもの。

この焼却炉建設の計画が住民に明らかになったのは昨年の暮れ、今年3月20日、地元の五領公民館での説明会には、住民ら約千名が集まり会場に入り切れず、関心の高さを示した。

微量でも毒性の強いダイオキシンの飛散の可能性もあるという話を聞いて、3月26日上牧・鵜殿のヨシ原で筆葉用の良質のヨシを管理・採取し、宮内庁などに収めている上牧実行組合の木村和男さんを訪ねて住民の方々と共に現状をお聞きした。

上牧・鵜殿ヨシ原から

800mの地に

焼却炉建設の予定地は、ヨシ原からは約800m。国道171号線沿い。周りには保育所、幼稚園、小中学校、高校など11もあり、農地も広がる住宅街。予定地から上牧小学校の先にヨシ原の堤防をすぐそこに望める地。



建設予定地はヨシ原から800m、高速道路の直ぐ脇。

「産業廃棄物の焼却炉の建設を、学校や農地の広がる文教住宅街に建設するなど例がない。何故ここに建設するのか」という住民の質問に、事業者は「新名神が出来るので便利だから」と答えたという。新名神高速道路のインターチェンジを下りたところの国道沿

いに予定され、近畿一円から、しいては全国から高速道を使って産廃が集められここで燃やされるのではと心配されている。

焼却炉の煙突から 有害物質の飛散の恐れ

予定されている産業廃棄物焼却炉は「特別管理産業廃棄物」も含まれる。煙突からは金属(鉛、銅、ヒ素など)など危険極まりない有害化学物質が飛散する可能性がある。

煙突の高さは、30mで、建設される高速道路(45m)より低いところで煙が出される。それも24時間煙突から排気ガスが飛散する。これらの飛散した有害物質(ダイオキシンなども飛散する可能性があるといわれる)は健康に影響を与えると共に田畑やヨシ原の汚染も懸念される。

感染性ウイルスの汚染も

さらに恐ろしいのは「感染性廃棄物」(※2)で病院などから出る感染性ウイルスも含まれている。

高槻市・土砂ハザードマップによると、焼却場は5mの浸水地域で、近年の想定を超えた大雨による洪水時には、感染性ウイルスなどの汚染物質により、あたり一帯、ヨシ原も汚染され、使い物にならなくなるばかりか、人の住めない土地になってしまう。

特に筆葉用のヨシは、口に含んで使用するものなので、土地の汚染には敏感にならざるをえない。

地域住民全員が反対している

焼却炉の問題点等の話を聞かせていただいた産廃焼却炉対策協議会の代表の上田博夫さんは「建設計画は住民のみんながとても不安に感じ、地域住民が全員反対しています。建設をなんとしても思いとどまらしたい」と決意を語る。



雅楽関係者に呼びかける木村和男氏

「筆葉では、ヨシを口に含むものなので絶対に汚染されてはいけません。焼却炉の煙突から出る有害物質で土地が汚染されたら農地も維持できなくなる。雅楽関係者も是非ご協力ください。署名活動も行っています。署名用紙を挟ませていただきます。よろしくお願いたします。」と雅楽関係者への協力を呼びかけられました。

千年以上伝えられつづけた雅楽を、今後千年も伝えられる環境を残せるように地元の方々と協力を強く感じて帰京した。(鈴木治夫)

(※1) 特別管理産業廃棄物・「爆発性、毒性、感染性その他人の健康又は生活環境に係る被害を生ずるおそれがある性状を有する廃棄物」

(※2) 感染性廃棄物・「医療機関等から排出される産業廃棄物であって、感染性病原体が含まれ若しくは付着しているおそれのあるもの」